

本特集では、急性心不全を「救急外来でみたとき」に、またその「入院後超急性期」「慢性期」「終末期」に、それぞれ何をすべきかをまとめます。急性心不全は、エビデンスのある治療がほとんどなく、生理学に応じた治療を理解し、目の前の患者の心不全の生理を考察し、それに対する介入が重要です。一方、慢性心不全は、生理学のみならずアウトカムスタディに基づく治療（エビデンス）が重要です。今回はその双方を盛り込んで企画しました。

心不全はStage分類でも理解できますが、「進行性の病気」であり予後が悪く、例えばStage 4の癌患者より、目の前の心不全患者のほうが予後が悪い場合があります。したがって、予後予測とそれを適切に伝えるスキルが必要になります。予後改善を目指した治療の導入のみならず、まさかのプランを患者とともに話し合うアドバンス・ケア・プランニングも、心不全ケアには必須です。最大限に治療をしても症状がとれない末期心不全になると、症状緩和が重要になります。家族へのグリーフケアも意識せねばなりません。これらの内容も盛り込んでいます。

すべての循環器患者を専門医だけでケアするのはとても難しい時代が到来しつつあります。循環器医と総合内科医が協力して心不全を管理していくために、本特集がまずその共通言語を提示するものとなり、将来を見すえた診療の橋渡しの1つとなることを目指します。

Part 1: 総論

1. 心不全の疫学、心不全予後予測スコアとその使い方

Part 2: ERで出会う心不全

2. 心不全の診断、治療における心エコーの役割
3. Case 1: 急性心不全には常に緊急冠動脈造影が必要か?
4. Case 2: 虚血性心筋症とは? 常に最初から血行再建が必要か?
5. Case 3: 血圧上昇を伴う電撃肺水腫
6. Case 4: 心房細動を伴った血圧が低い急性心不全のマネジメント
7. すぐに手術が必要かもしれない急性心不全: 急性AR, 急性MRについて

Part 3: ICU, 病棟での心不全管理

8. Heart failure with reduced EFを診る
 9. Heart failure with preserved EFを診る
 10. Case 5: 右室機能と右心不全をきたす疾患
 11. Case 6: Cold and Wetをどう脱するか?
 12. 心不全患者の緩和ケア
 13. 心不全緩和ケアにおける倫理問題とアドバンス・ケア・プランニング
 14. 慢性心不全患者の再入院を減らすには: アドヒアランスの重要性
- そのほかコラム多数

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

● BackNumber

■ Vol.1 (2013年)

- No.1 ホスピタリスト宣言
No.2 感染症

■ Vol.2 (2014年)

- No.1 腎疾患
No.2 膠原病
No.3 消化管疾患
No.4 緩和ケア

■ Vol.3 (2015年)

- No.1 呼吸器疾患1
No.2 外来における予防医療
No.3 虚血性心疾患
No.4 血液疾患

■ Vol.4 (2016年)

- No.1 代謝内分

No.2 周術期マネジメント

- No.3 腫瘍
No.4 他科の知識1

■ Vol.5 (2017年)

- No.1 神経内科
No.2 呼吸器疾患2
No.3 感染症2
No.4 老年科

■ Vol.6 (2018年)

- No.1 腎疾患2
No.2 糖尿病
No.3 肝胆脾
No.4 心不全

■ Vol.7 (2014年)

- No.1 外来マネジメント

この夏も、異常な暑さと天災が強く記憶されます。被災された方々にはお見舞い申し上げます。そんななかの明るいニュースの1つは、本庶佑氏のノーベル賞受賞でしょうか。実は弊社では「がん免疫療法の開拓者たち」という翻訳書を制作中です。これは米国のジャーナリストが、本庶氏をはじめ25人の「開拓者」たち取材し、客観的立場から門外漢にもわかるように、それぞれの研究やがん免疫療法の原理を解説、最新の研究を俯瞰できる内容になっています。(原書名: A Cure Within: Scientists Unleashing the Immune System to Kill Cancer)。人物描写に始まり、失敗を含めた発見までのプロセス、具体的エピソードに研究者の直筆のメモを大きく添えるなど、臨場感たっぷりの仕立てが特徴です。刊行は11月末の予定です。秋の夜長の読書にも、忙しい日々の気分転換にもおすすめです。本の造りの美しさもしっかりお伝えしたいと思います。ぜひ手にとってご確認ください。

● 広告一覧

医学書院…724, 740 羊土社…660
金原出版…604
南山堂…753
日本医事新報社…629

Vol.6 No.3 2018年9月1日発行〔年4回(3, 6, 9, 12月1日)発行〕

Hospitalist

発行者 金子 浩平

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話: 編集部 03-5804-6056 FAX: 編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL: <http://www.medsico.jp> Eメール: hospitalist@medsi.co.jp
振替: 東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161
広告取扱 メディカルブレーン 電話03-3814-5980
日本医学広告社 電話03-5226-2791
文京メディカル 電話03-3817-8036
福田商店広告部 電話06-6231-2773



9784895929554

(1部) 定価: 本体4,600円+税
2018年年間購読料: 19,008円(4冊, 税込, 送料弊社負担)

ISBN 978-4-89592-955-4

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為(複写, スキャン, デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて、業務上使用する目的(診療, 研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】<社出版者著作権管理機構 委託出版物>本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に社出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。